

あいさつ

佐賀県中学校教育研究会社会科部会
会 長 貞 包 浩 洋

佐賀県中学校教育研究会社会科部会の先生方におかれましては、社会科教育の発展のために日々、その実践と研究に取り組まれ寄与されていることに心から御礼申し上げます。また、昨年度は九州中学校社会科教育研究大会の紙面発表に際しまして、県内の先生方にご尽力いただき深く感謝申し上げます。

さて、本県は中学校社会科教育研究会の全国大会が令和9年度に予定されています。準備等々まだまだですが、小規模都道府県県庁所在地でも開催できるコンパクトな大会と銘うち、現時点では佐賀市中心部の3中学校を会場とし、3分野授業を実際に参観できる研究授業を企画したいと考えております。

令和4年度までの九州・全国大会では、授業を事前に録画したビデオ視聴、オンライン配信等による研究授業及び研究協議が大きな流れとなり主流となりつつありますが、これからの授業は、学びの3要素に迫る学習者一人一人の主体性を伸ばす協働型個別最適化にフォーカスしたものです。協働型個別最適化授業では、より多くの時間が生徒同士の対話に保障されなければなりません。参観者側においては、授業場面での生徒一人一人の問題解決の思考が学力向上の見取りとなり授業構成の論点とならなければなりません。ビデオやオンラインでは見取ることのできない一単位における個の伸びの様子です。生徒30人いれば、その30人は性別や学年の違いほどと例えられます。ゆえに授業者主体の問いや解説、または板書等の授業展開に着目してはいけません。そこで佐賀県中社研では、生徒一人一人の潜在的能力開発を『学び合い』の授業手法に求め、生徒一人一人のかかわりを重視し協働的学習形態の個別最適化を明らかにする授業を目指しているところです。

少なくとも戦後約80年間の中で社会科教育における指導方法、いわゆる教科教育においては、天文学的な研究論文、及びその授業実践が紹介されてきました。すべての研究実践はよりより社会科教育による生徒一人一人の学力向上です。本県は、その両輪（潜在的能力開発と潜在的学習指導）を融合させ協働型個別最適化授業にアプローチする研究実践に取り組んでいます。

昨今、「わかりやすい授業」「楽しい授業」というキャッチフレーズが教育現場で掲げられていますが、その根幹には、生徒の誰一人孤独感をもたないこと、孤独感をもたせないこと、そして学力とは説明できることにあります。つまり、授業者が生徒一人一人の学力を高めることに授業実践を求めるのではなく、学習集団として主体的に学び合う、高まり合う授業を目指し、授業者は生徒一人一人の主体性や他者とのかかわり、または主体的な対話で身に付いた知識や技能などを可視化し、ファシリテーションすることを重視した授業研究です。

例えば、「江戸幕府の成立」における基礎的・基本的学習内容がありますが、最底辺の生徒とトップクラスの生徒ではその定着が異なります。つまり、徳川家康を漢字で書けるようになることがめあてになる生徒もいれば、関ヶ原では時の戦国大名がどのような考えで東西のどちらに付いたかを詳しく説明できる生徒もいます。このような学力差において同じ説明を一言ですませることができません。一斉講義型授業では限界があります。このような現実を県内社会科の先生方には受け止めていただきながら、少しずつ潜在的能力開発に値する『学び合い』を取り入れた授業実践を心底から期待したいところです。

結びとなりますが、本研究会の活動にあたり、多くの関係諸機関、関係各位には並々ならぬご指導、ご支援をいただきますことを心より感謝申し上げ、あいさつとさせていただきます。今後ともよろしくお願いいたします。